

平成23年度 アイデアファクトリー提案書

1. アイデアファクトリー名称	和文：将来技術先取り設計 英文：Future technology driven design	
2. 提案者及び参加予定者	提案者： 手塚明（独）産業技術総合研究所	参加予定賛助会員企業：
3. 研究テーマ 対象分野	①	① グリーンイノベーション関連 ② ライフイノベーション関連 ③ 震災後のものづくり再開・再生技術関連 ④ その他
4. 研究の目的及び背景 (1)目的 グリーンイノベーション価値創造に関わる将来の製品・システム群の設計について、ハード・ソフト等の将来技術を仮定（借り置き）し、LCA 視点も含めた上で、どのような製品設計が可能かを議論し、実際に開発及び製造する際に欠けている周辺技術は何か、どのような技術開発が可能か、を同時に議論する事で、近い将来に向けた有効な技術開発のブレークスルーを見出す事を目的とする。 (2)背景 現状の技術にとらわれる事なく、有効な技術開発対象を見出す事、その技術開発の波及としての製品・システム群の事前検討はプロジェクトや開発に非常に重要な部分である。本提案は現状技術から思考を一端飛躍させるために、一部の将来技術を借り置きし、それがあれば可能となる製品・システムの設計を議論し、有効な技術開発対象を見出すものである。		
5. 研究全体概要 (1) 省エネ・新エネ/省資源・新素材/安全・安心等の軸で、毎回、異なるモチーフで集中議論し、オムニバス形式の会議とする。各社から参加者は毎回異なってもかまわない。 (2) 始めの数回は、過去事例として、例えば、省エネ大賞の受賞製品の開発者に、開発当時の将来技術開発の視点で、話を伺い、それを基に、将来技術先取り設計の議論を行う。 (3) モチーフは委員からの希望を基に、学術委員群が選考した上で、その分野の専門家による現状技術及び将来技術の話題提供と共に、話題提供者も含んだ、将来技術先取り設計のブレインストーミングを行う。 (4) 報告書の内容としては、オムニバス形式の将来技術先取り設計の議論を取り纏め、近い将来に向けた有効な技術開発ネタを示した内容と共に、本議論の方法論も明示し、今後の参考情報とする。		
6. 期待される成果及びアイデアファクトリー終了後の構想 (1)期待成果 有効な技術開発ブレークスルーの明示、参加企業のグリーンイノベーション提案力の底上げ (2)終了後の構想 公的資金によるフィージビリティスタディの実施、産学共同による大型の研究開発プロジェクトの提案・実施、企業による単独／共同プロジェクト化（コンソーシアムの形成）		
7. 予定研究期間	平成 23 年 8 月 1 日 ～ 平成 25 年 3 月 31 日	
8. 関連研究実績 価値創造型ものづくり力強化に関する調査研究、計算工学に関する実用研究、製造に関わるマネジメント		
9. 予定費用（上限 150 万円） 資機材・ソフトウェア 30 万円、国内旅費 80 万円、講師謝金及び交通費 20 万円、文献費 20 万円 合計 150 万円／年		

内訳（旅費、人件費、会議費等）を記載してください。